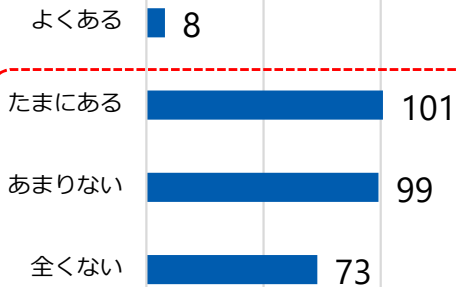


生徒の「薬害」への意識 <授業実施前>（東京学芸大学附属高等学校）

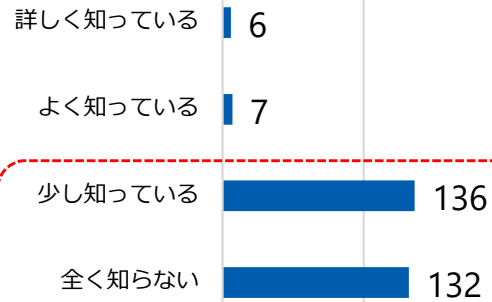
問1 「薬害」に関するニュースを目にしたことはありますか

n=281



問2 「薬害」について、あなたはどの程度知っていますか

n=281

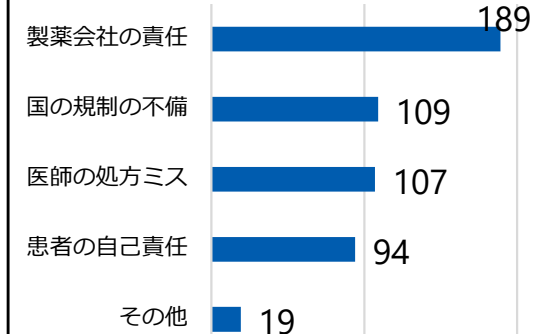


問3 「薬害」として思いつく事例を挙げてください（自由記述）

- ・紅麹（60件）
- ・薬物乱用・オーバードーズ（54件）
- ・分からない・思いつかない（54件）
- ・副作用による健康被害（34件）
- ・薬害エイズ事件（13件）
- ・サリドマイド・スモン（7件）
- ・B型肝炎（7件）
- ・コロナワクチン（7件）
- ・飲み合わせが悪い薬を飲む（6件）
- ・HPV（4件）
- ・異物混入
- ・過量投与、配合ミス 等

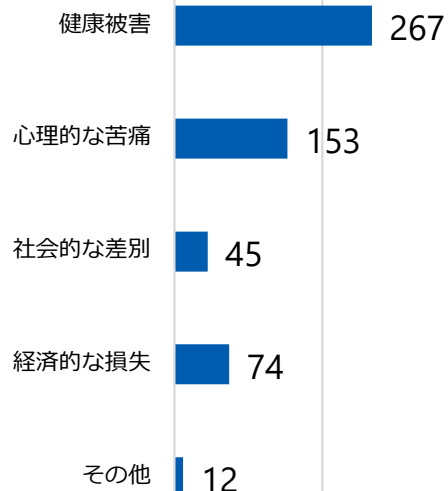
問4 「薬害」の原因として、何が考えられますか（複数選択可）

n=518



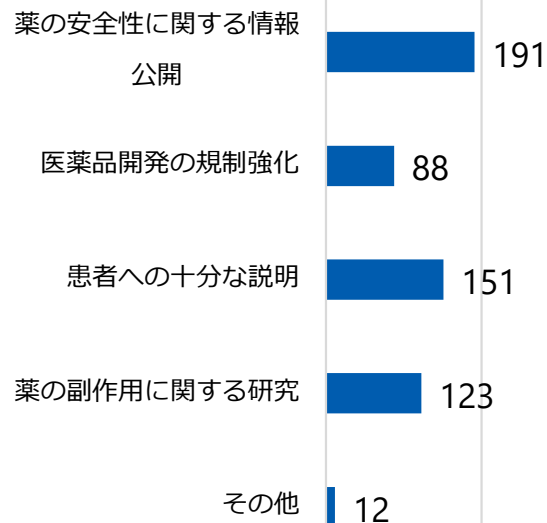
問5 「薬害」によって、どのような被害が起こると思いますか（複数選択可）

n=551



問6 「薬害」を防ぐためには、どのようなことが大切だと思いますか（複数選択可）

n=565



問7 薬を服用する際、あなたはどのようなことに注意していますか

<用法・用量等>

- ・用法・用量を守る（123件）
 - 服用回数
 - 服用の時間帯や食前・食後等のタイミング
 - 服用量
 - 服用条件（年齢など）
 - 処方された量を飲みきる 等

- ・飲み合わせに注意する（14件）
- ・水で飲む・お茶で飲まない（7件）
- ・むやみに薬に頼りすぎない（5件）
- ・オーバードーズしない（3件）
- ・人に処方された薬は飲まない 等

<効能・効果、副作用情報>

- ・効能・効果を確認する（8件）
 - 自分の症状に適しているか
 - どんな薬か、どのような効果があるのか
 - どのようなメカニズムで作用するか 等

- ・副作用を確認する（31件）
 - どのような副作用があるか
 - アレルギーはないか
 - 自分の体質と相性が悪くないか
 - 副作用はどの程度持続するのか
 - 過去に副作用を起こしたものは避ける 等

<医師・薬剤師の指示、説明書の確認>

- ・医師の指示に従う（50件）
 - 処方箋を確認する
 - 医師の指示を必ず守る・医師の説明を聞く
 - 副作用等、分からないことは聞く
 - 自分の症状を医師にしっかり伝える
 - 医師に処方されたものだけ服用する 等

- ・薬剤師の指示に従う（25件）
 - 薬剤師の人を信用する
 - 薬剤師に言われたとおりに飲む
 - 知らない薬の場合は薬剤師に説明を聞く
 - 併用薬や副作用などを薬剤師に聞く 等

- ・説明書・ラベルをよく読む（15件）
- ・基本的に国の安全基準と製薬会社を信頼しているのに、特に気にすることはない
- ・医者や薬剤師任せにせず、その薬の注意書きをよく読む 等

<その他>

- ・ジェネリックかどうか（5件）
- ・こわいならやめる
- ・その製薬会社が信用できるか確かめる
- ・その薬が本当に自分に必要か確認する 等

生徒の「薬害」への意識＜授業実施後①＞（東京学芸大学附属高等学校）

問1 今回の授業で「薬害」について新たに知ったことは何ですか（自由記述）※主なもの

<薬害とは>

- ・薬害の影響で人生が大きく変わってしまった人がいることに驚いた。
- ・体への障害や、次世代（生まれてくる子ども）への影響があることも知って怖くなった。
- ・被害者が差別を受けている現状があることを初めて知った。
- ・薬害は副作用とは異なり、製薬会社や国の対応の遅れなど、社会的な構造の問題と深く関わっている。
- ・「副作用」との違いがはっきりしていて、薬害は本来防げるものだったという視点が印象的だった。
- ・薬害の多くは、人災ともいえるもので、適切な対処がされていれば避けられたものだったと感じた。
- ・薬害の発生には、製薬会社の対応だけでなく、国の規制・対応の遅れ、医療従事者の判断ミス、情報共有の不足など複合的な原因があると分かった。
- ・医療従事者がリスクを軽視していたことや、海外で危険視されていた薬を日本で使い続けたことが、被害を拡大させたと知ってショックだった。
- ・薬害について知らない人が多い現状自体が、また新たな薬害を生む土壌になってしまうのではと危機感を持った。

⇒ 薬害という言葉自体を授業で初めて知ったという生徒も多く、「無知が怖い」と感じたという意見も見られた。

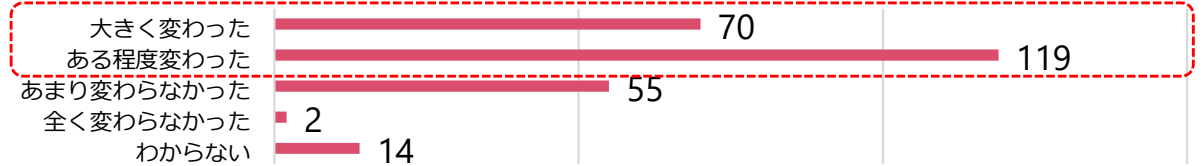
<教訓と対応>

- ・薬害は製薬会社や国だけの責任ではなく、利用者自身の知識や判断力も問われる問題だと感じた。
- ・ネットで薬の成分や副作用を検索できるサイトがあることを知り、今後活用していきたいと思った。
- ・「薬を処方されたから安心」ではなく、情報の信頼性や出どころにも注意を払う必要があると感じた。
- ・消費者（患者）側が医師や薬剤師に質問する権利・責任があると知った。情報の伝達の遅れや隠蔽によって被害が拡大したケースもあり、情報共有の大切さを実感した。
- ・「薬について知る」「薬について話す」「薬について考える」という姿勢が自分に求められていると気づいた。
- ・薬害を防ぐには一人ひとりの意識が必要だと知り、普段からニュースや医療情報に触れておくことの大切さを感じた。
- ・身近な薬にもリスクがあると知り、薬の扱い方について家族とも話してみたいと思った。

⇒ 医師だけでなく薬剤師の存在や専門性にもっと注目したいという声や、「今後、自分が医療や薬の問題に直面したときに、受け身ではなく、選択肢をもって対応できるようになりたい」、「教訓を生かして、周囲にも薬害について伝えたり、正しい知識を共有したい」という前向きな意見もあった。

問2 授業を受ける前と後で、「薬害」に対するあなたの考えは変わりましたか

n=260



問3 問2で「大きく変わった」「ある程度変わった」と回答した方にお聞きします。具体的にどのように考えが変わりましたか（自由記述）※主なもの

<薬害に対する意識の変化>

- ・「薬害」という言葉すら知らなかったが、授業を通して初めてその存在を知り、強く印象に残った。
- ・薬害は遠い出来事ではなく、身近な問題であり、誰でも関わる可能性があると感じるようになった。
- ・薬害は単なる副作用ではなく、深刻な健康被害を伴い、社会的な影響も大きいことがわかった。
- ・想像以上に薬害の被害は重大で、身体的な被害だけでなく、差別や長期的苦しみも生んでいると知って驚いた。
- ・これまで漠然と「薬は病気を治すもの」と思っていたが、リスクや影響も併せて考える必要があると気づいた。
- ・自分だけでなく、家族や周囲の人が被害に遭う可能性もあることに気づき、無関心ではいけないと思った。
- ・服用時には注意が必要であること、情報を得ることが大事であると改めて感じた。

<薬害の原因や背景に対する理解の深化>

- ・薬害は製薬会社の過失だけではなく、国、行政、医療従事者、さらには消費者の対応や意識も影響していると学んだ。
- ・複数の利害関係者（国・企業・医療者・消費者）が関与しており、責任を一方的に押し付けられない複雑な背景があると理解した。
- ・製薬会社が利益を優先するあまり、安全性を軽視したことが問題の一因であると知った。
- ・行政の規制や情報提供が不十分であったことも、薬害の拡大を招いたと感じた。
- ・利害関係の中で情報が操作されたり、正しい判断がなされなかった点が非常に問題であると思った。

<自分ごととしての意識の芽生え>

- ・自分自身で薬の副作用や危険性について調べたり、正しい知識を身につける必要があると感じた。
- ・これからは、病院で処方された薬でも鵜呑みにせず、自分で情報を確認したり医師に質問しようと思うようになった。
- ・薬を使うことのメリットだけでなく、リスクも自覚したうえで判断することが大切だと思った。
- ・情報を得る努力や、自分の身を守るための行動が必要だと強く感じた。
- ・家族や周囲の人にも、薬害の危険性を伝えていきたいと思った。

<今後への意志・社会的な広がり>

- ・薬害を「過去の事件」で終わらせず、今後繰り返さないために学びを活かしたいという思いが芽生えた。
- ・多くのの人に薬害について知ってもらう必要があると感じた。
- ・正しい知識をもつことで、将来同じような問題が起きた際に冷静に対応できる力を身につけたいと考えた。
- ・学校でこのような教育を受けられたことが非常に有意義で、今後の人生においても役立つと感じた。

⇒ 薬害を「遠い過去の出来事」や「専門家の問題」としてではなく、自分や身近な人にも関わっている現実的なリスクとして捉え直した回答が多い。薬害の原因が一部の組織に限らない複合的なものであることや、正しい知識を持ち主体的に判断することの重要性に気づいたという意見が目立ち、学びを通じて「知ること」「考えること」「伝えること」への意識が広がっている。

生徒の「薬害」への意識＜授業実施後②＞（東京学芸大学附属高等学校）

問4 薬害が起こらない社会にするためには、どのようなことが必要だと考えますか（自由記述）※主なもの

<国民・消費者としてできること>

- ・薬を使う側として、薬の情報や副作用について日頃から関心を持ち、自分でも積極的に調べたり、専門家に相談することが大切。
- ・薬剤師や医師に「任せきり」にせず、薬を服用する本人も安全性を確認し、分からないことは質問する姿勢が必要。
- ・他人事ではなく自分にも関係がある問題だと意識し、正しい知識をもって薬を使用すべき。
- ・薬の説明書をきちんと読む、成分や用量を確認する、心配な点は相談窓口に問い合わせるなど、日常的な行動の積み重ねが大切。
- ・授業などを通して学びを深め、薬に対する正しい理解を持つ機会がもっと必要。
- ・被害が起きたときには「声を上げる」「報告する」行動が、再発防止につながると気づいた。

<国の役割・制度の整備>

- ・法律やガイドラインの整備、審査体制の強化、治験の徹底といった制度的な対応が不可欠。
- ・薬の販売を認可する前に、より厳密で多面的な審査体制を確立することが求められている。
- ・被害発生時の救済制度や報告・情報共有の仕組みを整えることで、迅速な対応と再発防止が可能になる。
- ・新型コロナウイルスなど、迅速な薬の導入が求められる場合でも、報告・補償制度を強化するなどリスク対応力を高める必要がある。
- ・国民の意識改革を促すためにも、広報・教育を含めた国の情報発信が重要。

<製薬会社に求められること>

- ・利益追求よりも安全性を最優先にし、副作用やリスクについて正直に情報公開を行う姿勢が求められている。
- ・薬害が発生した場合には、迅速に原因を究明し、誠意ある補償対応を行うべき。
- ・安全性の確認を徹底し、海外の事例などにも敏感に反応して対応を取る必要がある。
- ・情報の透明性を高め、誰もがわかりやすくアクセスできる形で薬の情報を提供すべき。

<医療従事者の果たす役割>

- ・医師・薬剤師は患者に対して丁寧な説明を行い、リスクを含めた正確な情報提供を行うことが求められる。
- ・インフォームド・コンセント（十分な説明と同意）を徹底し、患者と信頼関係を築くことが大切だとされた。
- ・薬の処方にあたって、患者の状態や服用歴をよく理解したうえで、適切に対応する責任がある。

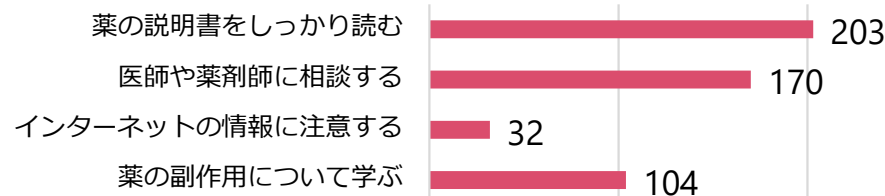
<連携と再発防止>

- ・国・製薬会社・医療従事者・国民それぞれが役割を果たし、相互に連携して薬害を防ぐ仕組みづくりが必要。
- ・被害をゼロにすることは難しくても、報告や情報共有によって被害を最小限に抑え、再発を防ぐ努力をすべき。
- ・問題が発生したときに備えた「危機対応力」を高めることが必要。

⇒ 薬害を防ぐためには国・製薬会社・医療従事者・国民それぞれの役割と連携が不可欠であるという理解が広がっていることがうかがえた。特に「自分ごと」として薬の情報を調べたり、正しく使う姿勢を持つことの重要性に気づいた意見が多く見られた。加えて、制度や法整備、情報公開の必要性にも触れ、個人の意識改革と社会全体の仕組みづくりの両輪が大切だというバランス感ある回答もみられた。

問5 消費者として、薬を安全に使うために、どのようなことに注意すべきだと考えますか（2つまで選択可）

n=516

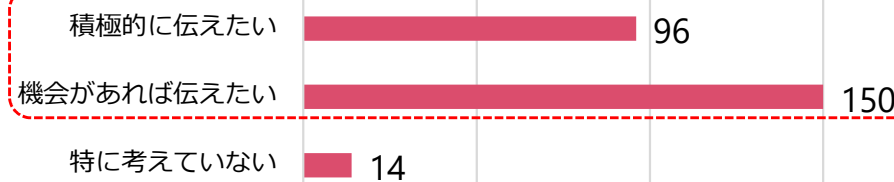


その他（自由記述）

- ・ キャッチコピーに騙されず、しっかりと
- ・ 何か被害があったらすぐ伝える
- ・ クリティカルシンキングを行う
- ・ 使用後に予期せぬ出来事が起きた場合に即座にフィードバックする
- ・ 正しい情報入手し、広める
- ・ 新薬をあまり使わない
- ・ 薬を実際に服用した人からの信頼できる
- ・ 極端な生活をしない
- ・ 評価を知るために自分から動く

問6 授業で学んだことを、周りの人に伝えたいと思いますか

n=260



生徒の「薬害」への意識＜授業実施後③＞（東京学芸大学附属高等学校）

追加質問 1 ある製薬会社は、特定の病気に関して非常に有効な医薬品の開発をした。この医薬品が広まることで、病気が劇的に改善されることが予見される。世論ではこの医薬品が待望されており、企業としては他社に先駆けて発表した。なにより、早く世に出して、この病気について解決させたいと願っている」人々が新薬を早くほしがっているとき、自分たちの考えた解決策と照らして、どのようなことが懸念されるか検証しよう（自由記述）※主なもの

<安全性確認の不足による懸念>

- ・新薬が急いで承認されることで、治験や実証実験が不十分なまま世に出る恐れがある。
- ・動物実験や臨床試験など、安全性を確認するプロセスには時間がかかるため、拙速な判断は薬害を引き起こすリスクがある。
- ・安全確認が十分でない状態で使用された薬により、予想外の副作用や後遺症が出る。
- ・特定の体質（アレルギー・妊娠中など）に対応できないまま使用されることへの不安。

<情報不足・説明不足への懸念>

- ・患者や国民に十分な情報が届かず、安全性の判断ができないまま使われてしまう。
- ・ワクチンや薬が流通する前に、副作用のリスクや使用条件について周知されないことで、混乱や不信感を招く可能性がある。
- ・情報公開が追いつかず、薬の使用後に問題が起きたとき、誰が責任を取るのかが不明確なまま被害が広がってしまう恐れがある。

<薬害の拡大・被害の深刻化>

- ・一度広く流通してしまうと、万が一の薬害時に迅速な回収や対応が難しくなるため、被害が拡大する可能性が高い。
- ・一気に使われた後で副作用が判明すると、大規模な健康被害や社会不安を引き起こす。
- ・薬の普及スピードと安全確認のバランスが取れていないと、まさに「良かれと思って出した薬」が大きな問題になりかねない。

<連携と再発防止>

- ・「早く出したい」という世論や企業の思いが、慎重な検証を妨げる口実になってしまう。
- ・病気克服や競争優位等の目的の正当性が、かえってリスク判断を甘くする危険性もある。
- ・善意であっても拙速な判断が重大な結果を生むことがあるため、冷静さが必要。

<制度・社会全体の仕組みへの提案・懸念>

- ・法整備やガイドラインによって、薬の検証を強制的に行う体制が必要。
- ・医療従事者・製薬会社・行政の三者が協力し、それぞれの責任を果たす仕組みが不可欠。

追加質問 2 薬害は単なる科学の問題ではなく、資本主義や民主主義と深く結びついている。それを踏まえて、市民(自分たち)ができること・果たすべきことは何か？（自由記述）※主なもの

<情報を自分で集め、見極める>

- ・一つの情報に惑わされず、多くの情報源から確認する」「得られる情報を鵜呑みにせず疑う姿勢が大事。
- ・インターネットやSNS上の情報も、複数比較して判断する
- ・企業が必ずしも正しい情報を出すとは限らない。市民が監視する意識を持つべき。
- ・安心して薬を使うために、副作用や効能について自分で知ろうとする。
- ・新薬を急がせるような世論があると、検証が不十分なまま薬が出回るかもしれない。だから薬害について関心を持つことが必要。

<薬害について関心を持ち、広める>

- ・薬害について自分からも広めていき、社会全体の認知度を上げる
- ・正しい情報を手に入れて、誤った情報を拡散しないようにする
- ・新聞投書やSNSを活用して薬害について発信する
- ・薬害について知り、関心を持って、周りにも広げていくことが大切

<医療従事者との対話・正しい薬の使い方>

- ・薬を使う前に医師に相談する。わからなかったら聞く。
- ・日頃から薬の用量を守り、適切に服用する。
- ・ただ使うだけでなく、医療従事者や資料から知識を取り入れる。

<政治参加や社会的な働きかけ>

- ・薬害対策を考えている政治家に票を入れる。
- ・社会全体で優先すべき課題を考えながら、選挙で意思表示する。
- ・パブリックコメントや署名活動に参加して薬害防止に貢献する。
- ・国民として受動的でなく、意見を発信することが必要。

<市民・消費者としての主体性>

- ・消費者も能動的に生産や消費に関わる意識を持つべき。
- ・受け身じゃなく、自分たちも積極的に行動するべき。
- ・企業のキャッチコピーや広告だけに流されず、自分の頭で考える。
- ・薬害は資本主義や民主主義の問題ともつながっている。市民もその一部として責任を持つ必要がある。